

令和4年度（令和3年度対象）

教育行政事業執行状況報告書

令和4年8月
白老町教育委員会

目 次

1	点検評価制度の概要等	2
	(1) 趣旨	
	(2) 点検・評価の対象及び方法	
	(3) 提出・公表	
2	教育委員会の活動状況	3
	(1) 令和3年度教育委員活動一覧	
	(2) 令和3年度教育委員会会議	
3	表彰制度	6
4	施策成果表	7
	学校教育課	
	生涯学習課	
5	外部評価	33

1 点検評価制度の概要等

(1) 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出・公表することが義務付けられています。

白老町教育委員会では、法の趣旨に基づき、教育行政の事業執行状況として、教育委員会の活動状況及び事務事業ごとに評価を実施した「施策成果表」をまとめました。

(2) 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、令和3年度教育行政執行方針に掲げた重点項目の主な施策、事業項目ごとに内容、成果及び課題等を示しています。

(3) 提出・公表

作成した本報告書については、議会へ報告するとともに、町ホームページ上で公表することにより、町民への説明責任を果たし、広く意見を拝聴しながら信頼される教育行政の推進に努めていくものであります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(昭和三十一年六月三十日) (法律第百六十二号)

～教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等～

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況

(1) 令和3年度教育委員活動一覧

日 付	活動内容	参加委員
4月2日(金)	教職員辞令交付式	全委員
11月11日(木)	総合教育会議	松本委員 吉良委員

感染症拡大防止対策により参加を中止した研修会等

北海道市町村教育委員研修会

白老町 PTA 連合会研究大会

胆振管内教育委員研修会

小中学校入学式

小中学校訪問

白老町成人式

小中学校卒業式

※教育長を除く

(2) 令和3年度教育委員会会議

第7回 令和3年4月19日	議案	第1号	白老町スポーツ推進委員に関する規則の一部を改正する規則の制定について
		第2号	白老町青少年センター設置規程の一部を改正する訓令の制定について
第8回 令和3年5月24日	議案	第1号	令和3年度教育委員会所管経費の補正予算について
		第2号	白老町立学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について
		第3号	白老町少人数指導支援員設置要綱の制定について
		第4号	史跡白老仙台藩陣屋跡整備基本計画策定準備委員会設置要綱の制定について
	報告	第1号	白老町教育支援委員会委員の選任について
		第2号	白老町社会教育委員の委嘱について
		第3号	白老町みんなの基金事業補助金の内定について
第9回 令和3年6月21日	報告	第1号	令和3年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
		第2号	白老町青少年問題協議会委員の選任について
		第3号	白老町青少年センター運営委員の選任について
		第4号	史跡白老仙台藩陣屋跡整備基本計画策定準備委員会の設置について
第10回 令和3年7月19日	議案	第1号	白老町学校給食運営委員会委員の委嘱について
	報告	第1号	令和3年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第11回 令和3年8月16日 (書面会議)	議案	第1号	令和3年度教育委員会所管経費の補正予算について
第12回 令和3年8月24日	議案	第1号	令和4年度より使用する中学校用教科書「社会(歴史的分野)」の採択について
		第2号	「令和3年度全国学力・学習状況調査」に関する結果公表のあり方について
	報告	第1号	令和3年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第13回 令和3年9月2日 (書面会議)	議案	第1号	令和3年度教育行政事業執行状況報告について
第14回 令和3年9月21日	議案	第1号	白老町文化賞及びスポーツ賞の諮問について
		第2号	白老町学校教育の情報化推進に関する計画の策定について
第15回 令和3年10月1日 (書面会議)	議案	第1号	白老町教育委員会教育長職務代理者の氏名について
	報告	第1号	白老町教育委員会委員の任命について
第16回 令和3年10月13日	議案	第1号	令和3年度教育委員会所管経費の補正予算について

(書面会議)		第2号	令和3年度白老町文化賞及びスポーツ賞等の決定について
第17回 令和3年11月11日	議案	第1号	白老町学校施設長寿命化計画の策定について
	報告	第1号	令和3年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第18回 令和3年12月6日	議案	第1号	令和3年度教育委員会所管経費の補正予算について
		第2号	白老町体育施設の指定管理者の指定にかかる白老町議会への議案提出について
		第3号	北吉原体育施設の指定管理者の指定にかかる白老町議会への議案提出について
		第4号	白老町温水プールの指定管理者の指定にかかる白老町議会への議案提出について
		第5号	令和4年度以降の白老町体育施設等の指定管理に伴う債務負担行為の要求について
第19回 令和3年12月15日 (書面会議)	議案	第1号	白老町いじめ問題対策連絡協議会条例の制定に係る白老町議会への議案提出について
		第2号	白老町附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例の制定に係る白老町議会への議案提出について
		第3号	「令和3年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査」に関する結果公表のあり方について
第1回 令和4年1月17日	議案	第1号	令和3年度教育委員会所管経費の補正予算について
	報告	第1号	令和3年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第2回 令和4年2月15日 (書面会議)	議案	第1号	令和3年度教育委員会所管事業(補正予算)の白老町議会3月会議への議案提出について
		第2号	令和4年度教育委員会所管経常費予算について
		第3号	令和4年度教育委員会所管事業費予算について
		第4号	令和4年度教育行政執行方針について
	報告	第1号	「令和3年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査」結果について
第3回 令和4年3月3日	議案	第1号	令和4年度当初学校職員管理職及び学校職員の人事異動について
第4回 令和4年3月14日 (書面会議)	議案	第1号	令和3年度教育委員会所管事業(補正予算)の白老町議会3月会議への議案提出について
第5回 令和4年3月28日	議案	第1号	白老町児童生徒就学援助要綱の一部を改正する訓令の制定について
		第2号	教育委員会事務局職員人事異動について
		第3号	教育委員会事務局職員の退職について
	報告	第1号	令和3年度白老町準要保護児童・生徒の認定について

3 表彰制度

教育委員会は、本町の文化・スポーツ振興等の向上発展に関し、実績の顕著な個人、団体を表彰し普及振興を図っています。

令和3年度は、次の方々が表彰されました。

文化奨励賞

氏名	分野
志摩 隆平	将棋（小学生）

スポーツ奨励賞

氏名	分野
堤 大翔	柔道（中学生）
山谷 きわ	カヌー（中学生）
山谷 とわ	カヌー（中学生）
森 春樹	陸上（高校）
エケ ジュニア瑠音	陸上（高校）
松木 七光	陸上（高校）
町井 大城	陸上（高校）
清水 徹	陸上（高校）
納村 琉愛	陸上（高校）
北海道栄高等学校陸上競技部男子 4×100m リレーチーム	陸上（高校）
北海道栄高等学校陸上競技部男子 4×400m リレーチーム	陸上（高校）
北海道栄高等学校陸上競技部女子 4×100m リレーチーム	陸上（高校）
北海道栄高等学校相撲部	相撲（高校）

学校教育課

1 確かな学力の育成

取組の概要（目的）	主体的・対話的で深い学びを実践し、子供たちの知識・技能と思考力・判断力・表現力等を育成し、子供たちの未来を拓く生きる力となる学力を育成する。
主な施策と取組内容	成果
(1) 白老町スタンダードの定着と実践 ①全国学力・学習状況調査の実施と結果の活用 ・令和3年5月27日実施 ②標準学力調査の実施と結果の活用 ・令和3年5月27日実施 ③小中一貫教育、小中連携教育の取組の推進 ・校区推進会議や合同研修会、乗り入れ授業の実施	①教科に関する調査は、全国平均を下回っている。質問紙調査では、基本的な生活習慣や学習時間等において上回る項目が見られた。 ②全国平均を下回る学年、教科が多いが、一部上回る学年、教科（中2社会、英語）がある。 ③会議や研修会の実施により、校区の学習や生徒指導のあり方を協議、乗り入れ授業により小中学校段階の円滑な接続につながった。
(2) 個別最適化された学びの充実 ①学習支援員の配置 ・学習支援員6名および少人数指導支援員2名の配置 ②ICT機器を活用した授業の実施 ・全校へ教育用タブレットの整備 ③遠隔授業、オンライン学習の推進 ・上記タブレットにより、遠隔授業の試行実施	①コロナ禍での学習支援・少人数指導支援を円滑に行い、子供たちの学びを止めず個に応じた学習活動を継続することができた。 ②2学期より全校においてタブレットを使用した授業を開始することができた。 ③竹浦小・虎杖小において遠隔授業の試行が始まり、小規模校における連携が進んだ。
(3) 家庭学習の習慣化と学習意欲の向上 ①漢字検定・英語検定の実施 ・漢字検定（令和3年10月8日、11月5日） ・英語検定（令和3年10月1日） ②白老寺子屋の実施 ・白老寺子屋（4回）を実施し、13名が受講	①【漢字検定（5級～10級）】 総受検者165名のうち、合格者126名 【英語検定（2級～5級）】 総受検者84名のうち、合格者44名 検定受験を通して、学習意欲の向上や計画的な家庭学習を進める機会につながった。 ②新型コロナの影響により回数を減らして実施したが、受講者からは受験に必要な基礎力、応用力を習得できたと概ね好評だった。

課題と今後の方向性

○各種調査において、当該学年の学習内容が十分に定着していないことが課題である。一方で、学習習慣の定着や家庭学習時間の増加、学習支援による学習意欲の向上が見られる。引き続き、ICTを効果的に活用しながら協働的な学びと個別最適な学びの充実を一体的に進めていく。

2 豊かな人間性の育成

取組の概要（目的）	多様な価値観の存在を認識し、豊かな情操や道徳心を培うことや様々な体験活動により、他者と協働することの重要性などの理解を深める。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 豊かな心を育む教育活動の推進 ①道徳教育の充実 ②ふるさと学習指導モデルに基づく教育活動 「アイヌ文化を学ぶふるさと体験学習」の実施（各校該当学年） 「子ども達に伝えたいアイヌ文化」講座（教職員研修）の実施 （令和3年8月2日、3日） ③「しらおい子ども憲章～ウレシパ（育ち合う）」の具現化		②各校で古式舞踊や文様切り絵等の体験、また、虎杖小と登別小の合同での体験学習などアイヌ文化への理解を深めた。また、感染症対策のため町内教職員に限定して開催し、指導に当たる教員の学びを深めることができた。
(2) いじめや不登校などへの対応の充実 ①いじめ防止基本方針に基づく取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの把握のためのアンケート（年2回）やいじめ問題への対応状況調査（年3回）を実施 ・不登校対策会議（年2回）、ケース会議（随時）、SSWと教育支援センター指導員の学校訪問、町生徒指導連絡協議会（年4回） 		基本方針の理解促進や各種調査により、実態把握と早期発見、組織的な対応につながった。 参加者（学校、教委、教育支援センター、SC、SSW）が、現状把握や意見交換を行うことで、児童生徒の実態に応じた支援計画を協議することができた。
(3) 読書活動の推進 ①第4次白老町子供の読書活動推進計画に基づく取組の推進 学校司書の増員（2名から3名へ）		各校の担当者と学校司書を中心に、読書活動及び読書環境の充実に努めた。
(4) 体験活動の充実 ①認知症サポーター養成講座、福祉施設訪問、車いす体験 ②ボランティア活動の推進 ③職場体験、職場見学の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命講習（白老小、竹浦小、虎杖小、白翔中） ・認知症サポーター養成講座（竹浦小、白翔中） 		新型コロナの影響により予定していた体験活動ができなかった学校もあったが、徐々に実施できる機会が増えてきた。

課題と今後の方向性

〇コロナ禍において、様々な人が集まる学習や体験活動の延期や縮小、中止を余儀なくされる状況が続いている中、活動のあり方を変えながら、ねらいに迫る取組を実施した。いじめ防止について、児童生徒による取組が各校で行われたことも好事例であり、引き続き、児童生徒の主体性を伸ばし、豊かな心を育む教育活動を推進していく。

3 健やかな体の育成

取組の概要（目的）	生涯を通して、健康に過ごすことができるよう望ましい生活習慣の確立、体力の増進・運動能力の向上、健康管理能力の育成や食育を推進する。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 体力・運動能力の向上 ①全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施と活用 ②体力向上プランの作成 ・調査結果から「体力向上プラン」を作成し、保健体育の授業改善や体力づくり（一校一実践）を推進した。		体力合計点は、小中学生ともに全国平均と同様か上回る結果である。質問紙調査では、目標を立てて取り組んでいる児童が多く、学習意欲の向上が見られた。
(2) 食育の推進 ①安全安心な学校給食の提供 ・学校給食における衛生管理の徹底 ・安全安心な給食を提供する（給食稼働年間日数 202 日） ②アレルギー対応給食の提供 ・アレルギー対応給食の提供（2校5名） ・保護者、学校、関係機関との連携強化と資質向上（アレルギー対応委員会、学校給食運営委員会 2 回開催、給食担当者会議 3 回開催） ③地場産物の活用や伝統料理などふるさと給食の提供 ・アイヌ伝統料理（年3回）、地場産品料理（年5回） ④子どもが作るお弁当の日（年2回） ⑤リクエスト給食の提供 ・児童生徒が選ぶ献立から提供（年10回）		①「学校給食の衛生管理等改善・充実プロジェクト事業」に参加し、衛生管理の改善に取り組んだ。 ③アイヌ伝統料理を通じて、アイヌ文化やアイヌの習慣に触れる機会の増加につながっている。令和3年度提供のアイヌ伝統料理レシピが、北海道学校給食コンクールで最優秀賞を獲得した。
(3) 健康教育の充実 ①子ども版出前講座の活用 ・中学校2校で講師を招聘し、「性教育講話」を開催 ②薬物乱用防止教室の開催 ・各校で薬物乱用防止教室を開催 ③フッ化物洗口の実施 ・新型コロナの影響により休止 ④ピロリ菌検査の実施 ・中学校2年生の希望者を対象に実施		①従来の性教育に加えて、LGBTやSNSの注意事項等、近年新たに社会問題となっている事項についても理解を深めることにつながった。 ②苫小牧警察署やライオンズクラブの協力により、薬物乱用の危険性や心身への影響等を学習した。

課題と今後の方向性

- 体力・運動能力の向上については、今年度の結果が維持向上するよう、体力向上プランによる検証改善サイクルをより一層充実させることが必要である。
- 児童生徒が生涯を通じて健康に過ごすことができるよう、望ましい生活習慣の定着や運動習慣づくり、健康教育の充実を今後も継続していく。

4 特別支援教育の充実

取組の概要（目的）	インクルーシブ教育の推進により、特別な支援を必要とする一人ひとりの教育的ニーズに応じた多様で柔軟な学びの場を整備する。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成と活用 ①個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画により、長期的な視点で一環かつ的確な教育支援を行う。 ・個別の指導計画により、学校生活において障がいのある児童生徒と一人ひとりの教育的ニーズに対応したきめ細かい指導や支援を行う。 ②子育て支援ファイル「みらいすけっち」の普及と活用		①指導計画作成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児童生徒 個別の教育支援計画 100% 個別の指導計画 100% ・通常学級在籍児童生徒 個別の教育支援計画 72名 個別の指導計画 40名 計画の整備が進んでいる。
(2) 特別支援学級の環境整備 ①特別支援教育支援員の配置 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員 6名を配置 ②パートナーティーチャー派遣事業や外部講師の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・室蘭養護学校、苫小牧養護学校、平取養護学校から派遣 ・胆振教育局スーパーバイザーの派遣 ③特別支援学級担当教員の免許取得奨励 ④教育支援委員会の開催と専門性を高める研修の実施 ⑤通級指導教室の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・白老中学校へ新たに通級指導教室を開設した 		①支援員が特別支援学級担当を補助することで、より細やかな指導につながった。 ②当該児童の観察や授業参観、教育相談を実施することで、特別支援教育担当教員のスキルアップにもつながった。 ⑤既設の白老小学校と連携し、教育的ニーズへの対応を行うとともに、小学校から中学校への連続性をもった通級指導を実施できた。

課題と今後の方向性

○関係機関との連携により、様々な視点や専門的な見地から児童生徒の状況を把握し対応することが求められている。関係機関との情報共有や連携強化を図りながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。

5 ふるさと教育の充実

取組の概要（目的）	歴史や伝統文化など白老町の多様な教育資源を活用し、ふるさとへの愛着や多文化共生の心を育む取組を発達段階に応じながら推進する。
主な施策と取組内容	成果
(1) 白老未来学の構築と推進 ①小中学校の一貫したカリキュラム作成 ・白老未来学準備委員会を開催（2回） ②ふるさと学習指導モデルの実践 ③ふれあいふるさと Day の実施 ・小中学校6校でふれあいふるさと Day を開催（年2回） ④アイヌの人々の歴史と文化を学ぶ教職員研修 ⑤仙台藩元陣屋資料館の活用 ・各小学校4年生が資料館の見学等を実施	①白老未来学準備委員会を組織し、現状の整理と、次年度のカリキュラム策定に向けた準備作業を行った。 ③一部学校では新型コロナの影響で外部参加者を招聘できなかったが、その他の学校では、地域住民や防災マスター等の協力を得るなど、多様な取組を行うことができた。 ⑤社会科の学習で校外学習を実施。白老町の歴史について学びを深めた。
(2) 外国語教育の充実 ①ALT（外国語指導助手）の派遣 ・ALT2名を各校へ派遣し、小学校の外国語専科教員、中学校の英語科担当教員と外国語の授業を行った ②児童生徒の国内外交流事業の推進 ・新型コロナ感染症の影響を鑑み、交流事業の実施を見送った	①児童生徒がネイティブの英語に触れる機会が増え、英語学習への意欲向上につながっている。また、外国語専科教員が授業を行うことにより、他の教員の負担が軽減され、働き方改革にも寄与している。
(3) 社会科副読本の改訂・活用 ①社会科副読本のデジタル化の推進 ・社会科副読本の授業での活用	副読本のデジタル化は、未実施だがタブレット端末の導入により、副読本を活用しながら調べ学習を行うことが可能となった。

課題と今後の方向性

- 「白老未来学」はふるさと学習指導モデルを継承する重要な指導カリキュラムとなるため、策定実務を行う「白老未来学構築委員会」において、引き続き策定を進める。
- タブレット端末の整備によりオンラインでの交流が行いやすくなったことから、今後は外国語デジタルコンテンツの充実や国外の児童・生徒等とのオンライン交流も検討したい。

6 地域とともに育つ学校づくり

取組の概要（目的）	家庭や地域社会も教育の場となり、保護者や地域住民が目標を共有しながら活動し、地域全体で子供たちを育む取組を進める。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 地域学校協働本部活動の推進 ①コーディネーターを活用した地域人材・地域の教育資源の活用 ・「緑塾」等の地域ボランティア連携事業を実施 ②地域への教育活動の周知や広報 ・コミスクだよりを発行し、各学校や町内会で回覧		クラブ活動講師調整や各種学校行事の取材、地域指導者との連携、職場体験受け入れ先との折衝など、地域と学校をつなぐ役割を果たした。
(2) コミュニティ・スクールの活動推進 ①各学校の実態に合わせた活動の推進 ②活動内容の周知や広報の推進 ③学校運営協議会の開催 ・各校で学校運営協議会を開催（2 中学校区で延べ 13 回実施）		協議会において、学校運営や部活動、メディアコントロール等の課題について検討及び協議が行われ、地域ぐるみで子供の成長を支える体制づくりに取り組んだ。
(3) 幼稚園・保育園、小学校、中学校の連携による円滑な学びの接続 ①白老町版スタートカリキュラムの作成 ・「白老町幼保小連携・接続プラン」を策定 ②乗り入れ授業、出前授業の実施 ・小1プロブレムや中1ギャップに対応し、校種間の円滑な接続を目指す ③幼児学童連絡協議会の活動推進 ・町教委と連携し、上記連携・接続プランを策定		①連携・接続プランは、「安心・自立・成長」を観点に策定され、スタートカリキュラムとあわせて、幼保小の引継ぎや小学校入学時のカリキュラムに活用 ②新型コロナの影響により実施できなかった学校もあったが、小中では算数・数学の乗り入れ授業や幼保小での作品交流などを行うことができた。

課題と今後の方向性

- 地域学校協働本部については、地域部活動やコロナ禍における地域とのつながり等様々な懸案事項があることから、令和4年度以降は体制の強化を行いたい。
- コミュニティ・スクールを通して学校と保護者、地域住民等が一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組み、特色ある教育活動を展開していく。

7 安全・安心の保障

取組の概要（目的）	子供たち誰もが家庭の経済状況や地理的条件の影響を受けず、未来に希望を持ちそれぞれの夢に向かって頑張ることができるよう子供の学びを保障する。
主な施策と取組内容	成果
(1) 学びのセーフティネットの充実 ①就学援助の実施 ・年間118件（認定率27.9%）を認定。 ②スクールソーシャルワーカーの配置と活動支援 ・スクールソーシャルワーカー2名を配置 ③白老寺子屋の実施 ④放課後学習の充実 ⑤1人1台タブレット端末整備と活用 ・令和3年8月からの本格運用に当たり、使い方のきまりや持ち帰りの手引き等を整備。ICT推進委員会を開催しタブレット端末の活用について意見交換や情報提供を行った	①学用品費や修学旅行費等を援助することで、経済状況によらず教育活動を保障する支援となった。 ②様々な理由で困難を抱える家庭に対し、家庭訪問や教育相談を行うほか、関係機関との情報共有等を行い、状況の改善につなげた。 ⑤タブレット端末活用の環境整備やICTを効果的に活用した授業づくりについて整理した。
(2) 安全教育の充実 ①救急救命講習の実施 ・白老小、竹浦小、虎杖小、白翔中で実施 ②学校版危機管理マニュアルの継続的な見直しと運用 ③食物アレルギー対応マニュアルの見直しと適正な実施、教職員研修の実施 ④通学路安全プログラムによる通学路の点検 ・白老町通学路安全推進会議開催 ⑤1日防災学校の実施 ・中学校2校で1日防災学校を実施。また小学校2校は全町一斉津波避難訓練に参加した。	①救急救命講習を通じて、緊急時の救命手順や心構え等を学習することができた。 ③安全推進会議において、通学路安全プログラムによる関係機関との合同点検を実施し、通学路の危険箇所についての情報共有を行うことができた。 ⑤1日防災学校や避難訓練への参加を通じて、児童生徒が白老町の地域特性による災害の状況や、避難所運営の知識等を習得することができた。

課題と今後の方向性

- 学校版危機管理マニュアルの見直しや救急救命講習・1日防災学校の実施等、災害に備え、児童生徒の命を守る取組を強化していく必要がある。
- タブレットの活用については、今後さらに進むICT化を見据えながら効果的な方法の検討を継続していく。

8 学校の組織運営体制の充実

取組の概要（目的）	教職員の資質向上や学校の組織としての在り方などを見直し、複雑化・多様化した課題を解決することのできる「チームとしての学校」づくりを進める。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 教職員の働き方改革の推進 ①白老町アクションプランの取組推進 ・校務支援システムの積極的な活用や時間外勤務縮減に関わりコアチームの設置による業務改善等を行った ②スクール・サポート・スタッフの積極的な活用 ・小中学校3校への配置 ③部活動指導員の外部指導員、外部コーチの活用検討 ④ICT 機器を活用した授業や研修の実施 ・会議・研修等のタブレット端末活用によるオンライン開催		①個の気付き、チームの対話、地域との協働が促進され、業務改善が進んでいる。 ②スクール・サポート・スタッフにより教員の業務が軽減され、働き方改革の推進につながった。 ④新型コロナの影響もあり、会議や研修をオンラインで開催する仕組みが定着し、移動時間の大幅な減少や紙資料の節約等につながった。
(2) 教職員の資質向上 ①能代市教育視察訪問 ・教育研修会をオンラインで実施（令和3年12月27日） 講話「確かな学力を育む秋田の探究型授業について」 能代市教育委員会指導主事 ②教職員の服務規律保持 ・各種会議等を通じて指導するとともに、各校において全体研修と個別研修、一校一実践の取組を実施した ③校外研修への参加支援		①新型コロナの影響により視察訪問は実施できなかったが、オンライン研修により、能代市における学力向上に係る取組への理解を深めるとともに、各校各自の教育実践を振り返り、授業改善の充実を図る白老町スタンダードの推進に寄与した。 ②計画的、かつ時機を捉えた研修が実施され、教育公務員としての意識の向上が図られている。

課題と今後の方向性

- タブレット端末の利活用が進むことで、働き方改革の推進にも寄与することから、今後も積極的な活用を進めていきたい。
- 能代市の教育視察訪問については、本町に探究型授業を定着させ学力向上につなげるための大変重要な事業であることから、次年度は新型コロナの状況を注視しながら極力訪問できるよう進める。

9 教育環境の充実

取組の概要（目的）	学校施設の安全性の確保や防災機能の強化、老朽化対策などを庁内関係部署と連携しながら、学習環境の充実に努める。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 学校の適正規模の検討 ①適正規模の方針検討、作成 <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会内部での準備、検討 ・竹浦小・虎杖小による遠隔授業の実施 		教育委員会の内部で今後の方向性や進め方を再検討した。また、タブレット導入に合わせ、道教委事業による遠隔授業に取り組み、小規模校のデメリット解消に努めた。
(2) 教育施設の整備・充実 ①関係部署と連携した教育施設や他の公共施設の複合化検討 ②学校施設の耐震化100%の早期実現 <ul style="list-style-type: none"> ・萩野小学校の大規模改修を実施（2か年計画の1年目） ③学校図書館の蔵書充実		②耐震化100%達成へ向け、危険建物内の教室機能を別棟へ移設する工事を実施できた。また、老朽化した校舎内部・外部を改修することで、安全かつ快適な学習環境を構築することを目指す。

課題と今後の方向性

- 萩野小学校の大規模改修については、令和4年度の工事で耐震化未対応棟を未使用化することにより、耐震対策が完了する。
- 耐震化以外においても、学校施設の老朽化進行による様々なトラブルが発生しており、児童・生徒の安全確保のためにも、計画的な修繕が必要。
- 今後の子供たちの教育環境整備に向けた方針等の策定を行う。

令和3年度白老町学校教育基本計画進捗状況結果

目標値達成状況

22項目中16項目

72.7%

評価指標		目標値に対しての達成率
a	順調	90%以上
b	概ね順調	70%～89%
c	やや遅れている	50%～69%
d	遅れている	49%以下
-	未着手または評価不可	未着手(0%)、評価不可

基本方向1 確かな学力の育成		実績	達成状況
自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合	児童	95.7%	a
	生徒	69.1%	a
授業でもっとICT機器を活用したい児童生徒の割合	児童	85.8%	a
	生徒	83.3%	a
学校の授業以外に勉強する時間が1時間以上する児童生徒の割合	児童	92.8%	a
	生徒	61.9%	b
基本方向2 豊かな人間性の育成		実績	達成状況
自分には良いところがあると思う児童生徒の割合	児童	78.3%	a
	生徒	76.2%	b
いじめはどんな理由があってもいけないと考える児童生徒の割合	児童	97.9%	a
	生徒	98.8%	a
将来の夢や希望を持っていると答えた児童生徒の割合	児童	87.0%	a
	生徒	69.0%	b
学習を除く1日の読書時間が「10分以上」の児童生徒の割合	児童	72.7%	a
	生徒	55.9%	a
基本方向3 健やかな体の育成		実績	達成状況
健康やスポーツをすることは好きである児童生徒の割合	児童	93.5%	a
	生徒	79.7%	a
毎日、朝食を食べている児童生徒の割合	児童	94.6%	a
	生徒	91.7%	a
学校給食における地場産物活用の割合		59.5%	a

基本方向4 特別支援教育の充実		実績	達成状況
個別の指導計画を作成している割合		100%	a
子育て支援ファイル「みらいスケッチ」普及率		—	—
基本方向5 ふるさと教育の充実		実績	達成状況
健康やスポーツをすることは好きである児童生徒の割合	児童	93.5%	a
	生徒	79.7%	a
毎日、朝食を食べている児童生徒の割合	児童	94.6%	a
	生徒	91.7%	a
基本方向6 地域とともに育つ学校づくり		実績	達成状況
地域の行事に参加している児童生徒の割合	児童	83.7%	a
	生徒	52.4%	a
地域社会などでボランティア活動に参加したことがある児童生徒の割合	児童	79.4%	a
	生徒	67.5%	b
基本方向7 安全・安心の保障		実績	達成状況
難しいことでも失敗を恐れず挑戦する児童生徒の割合	児童	87.0%	a
	生徒	61.9%	b
人の役に立つ人間になりたい児童生徒の割合	児童	96.8%	a
	生徒	75.0%	a
基本方向8 学校の組織運営体制の充実		実績	達成状況
算数・数学の授業がわかる児童生徒の割合	児童	89.1%	a
	生徒	63.1%	a
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童生徒の割合	児童	93.5%	a
	生徒	75.0%	a
基本方向9 教育環境の充実		実績	達成状況
学校図書館図書標準率を達成している学校数		5校/6校	a
学校施設耐震化		94.7%	a

生涯學習課

1 青少年教育の推進

取組の概要（目的）	ふるさとを学ぶ体験活動を通じて、自主性・社会性を育むとともに、豊かな感性と郷土愛の醸成を図り、次代のまちづくりを担う青少年の健全育成を推進する。
主な施策と取組内容	成果
(1) しらおいの魅力に気づき、ふるさとへの誇りや愛着を育むふるさと教育の推進 ○豊かな自然や歴史など地域資源を活かした体験イベントの実施 ①「青少年体験事業～陣屋跡親子で凧揚げ大会～」開催 （開催日：1/10）	①親子 16 名が参加して、凧作りと凧揚げに挑戦し、親子が触れ合う機会の提供を行った。
(2) 子供たちの主体性や協調性を育む交流機会の充実 ○歴史や文化に親しむ交流機会の充実 ① つがる市小学生との交流 ○国際感覚を養う交流機会の充実 ② ケネル市との国際交流	①・②新型コロナの影響により事業中止。
(3) 地域活動やまちづくりの担い手となる人材の育成 ○新成人を含む地域の青年の主体的な参画による成人式の開催 ① 白老町成人式（開催日：1/9） ○北海道教育委員会と連携したリーダー養成研修への派遣 ② フロンティアリーダー養成研修への派遣 （開催日：7/28～8/1） ○地域の青年団体等の活動への支援 ③ 地域の青年団体等が実施するイベントや取組への支援	①地域の青年による実行委員会体制を構築し、企画運営を主体に取り組み地域活動への参画意欲を高めることができた。（98名参加）。 ②新型コロナの影響により希望者なし。 ③白老青年会議所が企画する小中学生向け事業や地域行事に対して各学校との連絡調整を行うなど、まちづくり活動への参画を支援した。

課題と今後の方向性

- 青少年における姉妹都市交流については、コロナ禍で令和2年度から事業中止が続いているため、今後の在り方について協議する必要がある。
- 成人式について、民法の一部改正に伴い成年年齢が 18 歳に引き下げとなったが、「白老町二十歳を祝う会」に名称を変更してこれまでどおり 20 歳を対象に祝賀式典を行うこととした。

2 成人教育の推進

取組の概要（目的）	町民ニーズや地域課題の把握に努め、公民館講座をはじめとした学びの場の充実や、女性が社会で活躍できる基盤づくりを推進する。	
主な施策と取組内容		成果
<p>(1) 町民ニーズを捉えた多様な「公民館講座」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公民館等の社会教育施設において、地域人材や関係団体など、多様な主体と連携した講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> ①公民館講座事業「しらおいアイヌ文化講座事業」（開始日：10/2） ○ICTを活用した取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ②公民館講座事業「プロに学ぶスマホでかんたん映像制作教室」（開催日：7/9 他計4回開催） 	<ul style="list-style-type: none"> ①多文化共生社会の実現やアイヌ文化への理解促進を図った。（10名参加） ②まちの魅力発信をテーマに映像制作することで郷土への愛着を深めることができた。（10名参加） 	
<p>(2) 地域課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組む意識を醸成するための学習機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会教育関係団体や町内会組織等と連携した講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①公民館講座事業「地域課題セミナー」（開催日：10/23） 	<ul style="list-style-type: none"> ①高校生を含めた地域で活動する若者からの参画を得ることで、持続的なまちづくりを進めるためのヒントを得るとともに、参画を促す支援の在り方について理解を深めることができた。（44名参加） 	
<p>(3) 女性が社会で活躍するための人材育成及び支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国内女性リーダー養成研修等への派遣 <ul style="list-style-type: none"> ①胆振女性リーダー養成研修会への派遣（開催日：12/15） ○地域で活躍する女性に学ぶ女性向け講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> ②公民館講座事業「プリザーブドフラワーリースでつなぐ公民館女性講座」（開催日：11/10） 	<ul style="list-style-type: none"> ①オンラインで行われた「男女共同参画推進フォーラム」の基調講演と鼎談を受講して、今後の取組につながる良い学びの場にすることができた。（8名参加） ②「やりたいと思ったら年齢は関係ないと思った」との感想も出され、女性が積極的に社会参画することへの意欲を高めることができた。完成した作品は白老町文化祭にも展示された。（9名参加） 	

課題と今後の方向性

- 公民館講座参加者の満足度は高く、習得したスキルを活用した取組も見られるため、今後は更なる活用が図られるよう支援していく必要がある。
- コロナ禍によりオンラインでの研修や講座が増えていることから、より効果的な学びとなるようICT機器への理解を深めるための機会が求められている。
- 急速に進む人口減少や少子高齢化により、地域の活力の低下が懸念されていることから、公民館等の社会教育施設がつながりづくりの拠点として活用されることが求められている。

3 高齢者教育の推進

取組の概要（目的）	高齢者が長く健康に生活を送ることができるまちづくりを推進するため、「社会を支える高齢者像」への転換を地域全体で進めていく。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 高齢者の知識を活かした事業、世代間交流の推進 ○世代間交流の推進 ①「むかしの遊び」伝承活動 ○人材の発掘と活動機会の創出、支援 ②地域交流推進プランの策定		①新型コロナの影響により事業中止。 ②世代間交流事業に対する高齢者大学の参加・協力体制の構築を図った。
(2) 高齢者による主体的な学習、健康増進を支える環境づくりの促進 ○高齢者関連事業の開催、支援 ①公民館講座事業「高齢者生きがいづくり事業」 ○健康づくりに資する機会の創出、支援 ②白老町元気まちねんりんピック		①・②新型コロナの影響により事業中止。
(3) 高齢者大学の主体的な運営の促進 ○高齢者大学の活動内容の充実、積極的な周知活動による参加奨励 ①白老町高齢者大学の運営		①大学情報の発信を多様化させるとともに、危機管理体制を整備した。また、定例講座に関する学生の意向調査を実施し、次年度の計画に反映させることができた。
(4) 高齢者の意識や認識の転換に向けた取組の促進 ○これからの高齢者モデルの設定と発信、高齢者に関する実態把握と分析 ①高齢者関係団体と連携した、高齢者に関する実態把握と分析		①今後の協議や実施に向け、高齢者教育に関する町民を対象とした意識調査の実施案を策定した。

課題と今後の方向性

- 時代の変化や校舎の老朽化に伴い、高齢者大学の移転や再編に向けて、現状を把握し新たな体制づくりが急務である。
- 町民の高齢者大学に対する理解や認知度を高める機会を創出し、これからの高齢者に求められる地域活動への積極的な参加に向けた学生への意識啓発を促し、地域との交流促進に向けて環境整備を行う必要がある。

4 社会教育施設・スポーツ施設の整備・活用

取組の概要（目的）	町民が安心して快適に利用できるよう、施設における利用実態を的確に把握しつつ、既存施設の有効活用と利用者目線に立ったサービスの向上に努める。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 計画的な修繕や設備の充実による利便性の向上 ○社会教育施設やスポーツ施設の現状の把握と施設毎の分析 ①施設の現状把握と分析 ○修繕改修計画の策定と適正な維持・管理 ②修繕改修計画の策定に向けた調査・協議 ○耐震化や長寿命化の検証 ③各種改修事業		①定期的に巡回を実施し安全面に配慮した管理を行った。 ②公共施設等総合計画の策定にあたり、利用実態や町民ニーズを踏まえた提案を行った。 ③中央公民館の音響設備改修等、安心・安全な公共施設の利用に供した。
(2) 施設の有効活用と検討、機能の向上 ○指定管理者との連携による施設の有効活用 ①指定管理者との連携による施設の有効活用 ○スポーツ施設の適正な管理と既存施設及び機器を活用した事業提案に対する支援 ②トレーニング機器を活用した健康づくりの推進		①施設の特性を生かした自主事業の実施などを通して、スポーツも含めた社会教育活動を展開した。 ②利用者に対し、機器の使用方法的説明を行うなど、使用しやすい環境整備に取り組んだことにより、一定数の利用者確保につながった。
(3) 利用者満足度の向上 ○親切丁寧な対応で親しまれる施設づくりの推進 ①親切丁寧な対応で親しまれる施設づくり		①入口に検温計を設置するなど、コロナ禍においても安心・安全な利用環境を整備した。

課題と今後の方向性

- 施設の老朽化が進んでおり、適切な応急措置や改修に向けた動きをするため、公共施設等総合管理計画との整合を図りながら、施設の在り方について方針を示す必要がある。
- 公民館をはじめとした社会教育施設においては、利便性の向上や環境美化に努め誰もが利用しやすい施設にする必要がある。
- 指定管理制度導入開始から年月が経っており、その間の社会状況の変化により、あらためて導入効果を把握する必要がある。現状と制度に大きな乖離がある場合は見直しを図る。

5 社会教育活動の推進

取組の概要（目的）	社会教育団体への支援強化や、多様な団体を結び付けるコーディネート機能の充実を推進する。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 社会教育関係団体等の活動の支援	①女性ならではの視点を取り入れて開催したセミナーや研修会などを精力的に開催し、地域課題解決につながる活動を充実させた。	
○持続可能な団体活動のための相談、支援		
①白老町婦人団体連絡協議会への支援		
(2) 地域の多様な団体の連携促進	①社会教育委員の会議における意見を踏まえ各活動の推進を図った。 ②新型コロナの影響により事業中止。	
○町民の意見をもとにした社会教育活動の推進		
①白老町社会教育委員の会議（開催回数3回）		
○団体活動のネットワーク化、リーダーやコーディネーターの発掘と養成		
②道教委と連携した各種養成事業への参加奨励		
(3) 活力あるまちづくりを進めるための社会教育活動への支援	①独立行政法人青少年教育「子どもゆめ基金」の活用を図り、しらおい親と子の劇場の取組に対する支援を行った。 ②4団体に対する支援を実施した。 ③文化・スポーツ分野での全道・全国大会に出場する際の派遣費の一部を助成した。	
○国や道などの補助事業による財源確保		
①コミュニティ助成事業などの活用促進		
○みんなの基金事業等、各種補助金を活用した活動の支援		
②みんなの基金事業の活用		
○町民の文化活動及びスポーツ活動への支援・表彰		
③児童・生徒の文化活動及びスポーツ大会派遣助成事業		
(4) 学習を支える情報収集と情報発信	①SNSを活用して事業の開催周知や報告を行うことで、町内外に対して広く生涯学習に関する情報を発信することができた。	
○町の公式 facebook を活用した社会教育事業等の情報発信		
①facebook を活用した情報発信		

課題と今後の方向性

- 社会教育活動団体の会員数や組織の弱体化が顕著であり、担い手不足が進んでいることから新たな指導者人材の育成や支援の強化が急務である。
- SNSを活用し、生涯学習や社会教育団体に関する情報提供を定期的に行い、社会教育の振興を図っていく必要がある。

6 芸術文化活動の推進

取組の概要（目的）	「歴史と文化のまち」にふさわしい、文化の薫り高く潤いのあるまちづくりに向けて、地域における文化活動の継承に努める。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 豊かな心を育む芸術鑑賞事業の推進 ○芸術鑑賞事業等の開催 ①しらおい創造空間「蔵」を活用した芸術鑑賞事業		①NPO 法人と定期的に情報交換を行うことで、蔵の現状や課題の把握を進めることができ、多様で魅力的な芸術鑑賞事業の創出につなげることができた。
(2) 町民がまちの魅力や良さに気付く学習機会の創出 ○地域について学ぶ講座の開催 ①公民館講座事業「交流促進バスで巡る魅力発見ツアー」 ○地域への学びを深める学習教材の作成 ②映像教材『しらおいふしぎ発見プロジェクト』の作成・活用		①参加者を臨時講師として位置付けることで、今後のガイド活動の発展につなげる機会となった。 ②新型コロナの影響により事業中止。
(3) 文化団体連絡協議会を中心とした特色ある地域文化の振興 ○各地区における文化祭の開催 ①白老町文化祭（地区文化祭は中止） ○各団体の発表機会の提供・支援 ②飛生芸術祭の関連行事への協力 ○町内で活動する文化団体への活動支援 ③白老町文化団体連絡協議会への支援		①文化活動の成果発表や鑑賞機会を設けたことで、まちの文化継承や発展に寄与することができた。 ②飛生アートコミュニティーと資料館の連携強化により、コロナ禍においても、1か月間で1,976名の来館者が得られた。 ③町内各文化団体のコーディネーター役を担う協議会に対して、補助金の支出や指導・助言を行うことで、多くの町民が郷土の文化に親しむ機会を提供することができた。

課題と今後の方向性

- 高齢化が進み団体の存続が困難になっている文化団体への支援や助言を行い、長期的に活動を支援していく必要がある。
- 地域における文化活動の継承に努めるため、地域おこし協力隊等の活用を図り、団体同士の結びつきをコーディネートする人材の育成や町内の小中学校や高等学校が取り組む地域学講座の充実が求められる。

7 文化財の保存・活用

取組の概要（目的）	本町の貴重な文化遺産の保存と活用を図り、優れた歴史と文化を着実に後世につなぐための取組を推進する。
主な施策と取組内容	
(1) 陣屋跡の環境整備及び多角的な活用の推進 ○史跡白老仙台藩陣屋跡保存活用計画の進行管理 ①環境整備に向けた有識者による委員会の開催 ○町民との協働による史跡の管理と活用 ②文化財等運営審議会、文化財パトロール等	①整備基本計画策定準備委員会を2回開催し、「保存活用計画」に基づいた第2次整備事業の方向性を定めることができた。 ②資料館友の会からの協力も得て、一連の消防訓練やAED操作訓練などを行い、緊急時の対応について理解を深めることができた。
(2) 町民に親しまれる博物館活動の推進 ○文化財を活用した特別展やイベントの開催 ①白老町・仙台市歴史姉妹都市40周年記念特別展 ②春の資料館まつり「こどもの日企画」・陣屋跡積極活用プログラム「陣屋の日」 ○質の高いガイド人材の養成、資質向上 ③仙台藩白老元陣屋資料館友の会への支援 ④地域人材育成・活用事業（館長とまち歩き講座）・『ふるさと再発見シリーズ』の刊行 ○情報誌やインターネットを活用した発信の強化 ⑤ポスター・リーフレットの増刷 ○展示の充実 ⑥企画展の開催	①歴史姉妹都市仙台市の文化に触れる特別展や体験講座など様々な事業を通して、相互理解を深めることができた。 ②コロナ禍ではあったが、実行委員会組織によって左記2事業を行い、史跡や資料館に対する愛着と理解に供することができた。 ③全国博物館大会・全道博物館大会のエクスカージョンでは、ホスピタリティあふれるガイド活動を展開して大きな評価を得た。資料館事業にも深く関与し、町のメッセンジャーとしての取組も顕著である。 ④おもてなしガイド人材育成のため、道南方面の陣屋跡及び関連施設の実地調査を行い、ガイドとしてのスキルアップにつなげることができた。 ⑤ポスターとリーフレットを改訂増刷し、観光関連施設などに幅広く設置することでPRにつなげることもできた。また、さらなる周知に向けてインターネットの活用も推進できた。 ⑥「第10回刀剣展」「白老の縄文展」など各種企画展を開催することで入館を促すとともに、展示資料の入れ替えをこまめに行い、多くの収蔵資料が町民の目に触れる機会の充実に取り組んでいる。

<p>(3) 国立アイヌ民族博物館との連携強化</p> <p>○調査研究体制の整備、充実、歴史的遺産の相互活用 ①ウポポイと協力・連携した取組</p>	<p>①森竹竹市や野村義一ら白老の偉人に関する共同調査を行い、国立アイヌ民族博物館での展示会を計画。また、有料入館者の約2割を数える「ウポポイ割」は利用者拡充の効果が得られている。</p>
<p>(4) 資料館見学や地域学講座など学校教育への積極的な支援</p> <p>○資料館を訪問する児童・生徒の受け入れ、町内の高等学校が行う地域学講座への協力 ①白老東高等学校「陣屋探究講座」への協力</p>	<p>①道教委事業「北海道 CLASS プロジェクト」への支援を行うことで、高校生が白老への愛着を深めるとともに、地域住民と協働した取組のきっかけづくりへの支援を行うことができた。</p>
<p>(5) 伝統文化継承者の活動促進</p> <p>○本町独自のアイヌ文化や各地域における伝統技能等を有する人材の発掘、活用、発信 ①白老民族芸能保存会への支援 ○後世へ伝統文化を伝える後継者の育成 ②虎杖浜越後踊り保存会への支援</p>	<p>①毎月2回の自主講習会を通じて、ウポポイにおける定期的な公演を実現するとともに、アイヌ文化交流会（ポロト自然休養林）を主催し、アイヌ文化の伝承と普及に努めた。 ②8月に地元海産物ロードにおいて、越後踊りパレードや灯籠流し、花火大会を主催し、伝統文化の伝承と普及に努めた。</p>

<p>課題と今後の方向性</p>	
<p>○ 陣屋跡の保存と活用を両立し本質的価値を将来へ確実に継承するため、保存活用計画の内容に基づいた整備計画の策定が必要である。</p> <p>○ 質の高いガイド人材の養成を行うため、資料館友の会会員のさらなる確保とボランティアガイドとしての資質向上が必要である。</p> <p>○ 資料の適切な管理と多岐にわたる博物館活動を推進するため、国立アイヌ民族博物館や近隣博物館施設等との連携が必要である。</p>	

8 読書活動の推進

取組の概要（目的）	蔵書の整備や読書機会の拡充を図り、誰もが気軽に利用できる親しみのある図書館づくりを推進する。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 親しまれる図書館を目指した施設と蔵書の整備・充実 ○読書活動を推進する蔵書選定、適切な蔵書管理 ①蔵書の選定と適切な管理 ○広く本に親しみ、読書機会をつくる事業の充実 ②ブックスタート ○アイヌ関係資料を含む郷土資料の収集及び活用 ③アイヌ関係資料の展示コーナーの充実 ○時節に応じた資料展示の充実 ④読書週間に合わせた取組		①リクエストを含む蔵書 1,785 冊を購入。汚破損等 1,955 冊を除籍し、令和 4 年 3 月現在の蔵書冊数は 74,790 冊。 ②幼少期から絵本を介して家族のふれあいの時間を持つ大切さを保護者に伝えることができた。 ③町民が白老やアイヌ文化について理解を深める機会を提供した。 ④子どもの読書週間に親子で本に親しむ機会を提供した。秋の読書週間に合わせた「本のリサイクル市」は中止とした。
(2) 利用しやすい環境づくりの推進 ○移動図書館車、本の宅配サービス等の活用促進 ①移動図書館活動 ○ICTを活用した環境整備の推進 ②情報通信技術を活用した環境整備		①来館が困難な町民に読書機会を提供することができた。貸出冊数 4,388 冊。 ②WEB 予約の対象資料の拡大や電話でのパスワード申請を可能としたことにより、WEB 予約の利用が 909 件に増加した。
(3) 家庭・地域・学校等と連携した子供の読書活動の推進 ○第四次白老町子供の読書活動推進計画の推進 ①公民館講座事業「親子で読書イベント」 ○学校司書との連携による調べ学習や読書活動の支援、充実 ②図書管理資料貸借システム（ペガサス便） ○保護者を対象にした読書の普及啓発活動の推進 ③らっこランド、おはなし会 ○読書活動団体等への支援・協力 ④読書活動団体等への日常的な支援・協力		①・④コロナの影響により事業中止。 ②ペガサス便の貸出 747 冊、北海道立図書館市町村活動支援事業の活用 2 校など、各学校への読書活動の支援を行った。 ③乳幼児やその保護者が本に親しむ機会の創出につながった。

課題と今後の方向性

- 新型コロナの影響により、読み聞かせ等の子供の読書活動が実施できない場合があるため、非来館での効果的な「家読」の啓発、推進が必要。
- 郷土資料の充実と積極的な活用促進。
- 蔵書冊数が施設の収蔵冊数を超過しているため、適切な蔵書管理と書庫機能を持った資料保管場所の確保が必要であることから、役場庁舎建設基本構想に基づき新図書館の建設基本計画の策定を進める。

9 スポーツ・健康増進活動の推進

取組の概要（目的）	子供から高齢者までより多くの町民が、スポーツや健康増進に取り組む機会の創出に努め、本町におけるスポーツ振興の推進を図る。
主な施策と取組内容	成果
(1) スポーツ推進委員等と連携した、健康増進・レクリエーション機会の充実 ○軽スポーツ等の普及、促進（スポーツ推進委員による学校教育への支援） ①白老町スポーツ推進委員会の開催 ○しらおい元気まち体操の普及 ②しらおい元気まち体操の普及推進	①町内小学校からの派遣依頼に応じた実技指導を行うことにより、本町のスポーツ振興を図ることができた。 ②STV ラジオによる町外への情報発信が図られた。
(2) ライフステージに応じた地域スポーツ活動の推進 ○指定管理者のノウハウやネットワークを活用した魅力的なスポーツイベントや講座の開催 ①公民館講座事業「しらおい元気まちスポーツイベント」 ②白老町体育協会におけるスポーツ施設を活用した取組 ③都市総合開発における町民プールを活用した取組 ○スポーツ大会やイベント開催による地域活性化 ④白老町健康マラソン・ファミリーウォーキング大会 ⑤北海道中学校軟式野球黒獅子旗大会 ○学校開放事業の適切な運営 ⑥学校開放事業	①新型コロナの影響により事業中止。 ②自主事業であるダンス教室等は受講人数を伸ばしている。 ③意欲的な自主事業の実施が見られる。 ④新型コロナの影響により事業中止。 ⑤野球の町である白老をPRすることができた。 ⑥長期休業中の平日昼間の枠も利用を可能として、町民の健康増進の機会創出に寄与した。
(3) スポーツ団体等との連携強化 ○スポーツ団体の活動の積極的な周知 ①スポーツ団体の活動の積極的な周知 ○指導者の育成による競技力の向上 ②白老町体育協会や各スポーツ団体等と連携した指導者の育成 ○総合型地域スポーツクラブとの情報共有 ③Gen キングしらおいクラブとの情報共有	①・②新型コロナの影響により事業中止。 ③新型コロナのため半数程度が中止となった。新たに地元の高校と連携し、地域との関わりの中で事業を開催する仕組みづくりを構築した。
(4) 計画性のあるスポーツ行政の振興 ○現状把握と方向性の検討 ①スポーツ行政全般の現状把握と方向性の検討	①コロナ禍において、スポーツ推進委員等との協議を設定できず、十分な現状把握と方向性の検討には至らなかった。

課題と今後の方向性

- 高齢化に伴い指導者の確保が難しくなっている現状や、少子化に伴い部活動や少年団が減少傾向にあるため、子供たちのスポーツ活動環境の整備が急務である。
- スポーツ施設の利用者に向けた事業展開を拡げ、健康増進の機会創出が必要である。
- Gen キングしらおいクラブは高齢化により事業継続が困難となっているが、中学校の運動部活動における地域移行の受け皿として、必要性が高まることから体制の強化が必要である。

10	青少年の健全育成
-----------	-----------------

取組の概要（目的）	地域住民と連携した巡回活動の充実と、「白老町アウトメディア123」を活かした取組の推進を図る。	
	主な施策と取組内容	成果
	(1) 地域住民と連携した巡回活動の充実 ○青色回転灯車による下校時の定期的な巡回活動 ①下校時の定期的な巡回活動 ○祭典実施時の巡回活動 ②祭典実施時の巡回活動 ○近隣市町と連携した通学列車添乗指導 ③通学列車添乗指導	①青少年センターにおける巡回活動については週1回のペースで巡回を継続することができた。 ②・③新型コロナの影響により事業中止。
	(2) 青少年を健全に育成する環境浄化活動の推進 ○「白老町アウトメディア123」の推進 ①「白老町アウトメディア123」の推進 ○社会を明るくする運動への協力 ②社会を明るくする運動 ○マチコミメールによる情報発信 ③マチコミメールによる不審者情報の発信	①本町の実態を伝える啓発用の通信「ルイカ」の発行を合計3号行うことができた。 ②各小・中学校であいさつ運動を行い地域住民からも取組に対して評価を得ている。 ③児童・生徒の安全を確保する上で危惧される情報があった際に情報を発信し、関係者との情報共有を行うことができた。
	(3) 悩みや不安を抱える青少年や保護者に対する相談活動の実施 ○相談電話による個別相談、相談ポストの設置 ①青少年や保護者に対する相談活動	①相談電話及びポストの利用はなし。
	(4) 健全育成活動に地域住民が積極的な参画を促す啓発 ○「青少年センターだより」による情報提供 ①「青少年センターだより」の発行 ○『広報げんき』による情報提供 ②『広報げんき』への原稿掲載	①健全育成に関する情報について、定期的に保護者や地域住民に提供することができた。 ②町民の会の各種行事について、定期的に情報発信することで、町民の会への理解を得ることができた。
	(5) 関係機関及び団体の連絡調整、ネットワーク化の推進 ○白老町青少年問題協議会の開催 ①白老町青少年問題協議会 ○関係機関や学校等との緊密な情報交流、連携強化 ②学校向けの説明用資料の作成	①青少年問題の現状と課題について、報告を書面で行うことができた。 ②学校が地域とともに行う活動の推進を図ることができた。

課題と今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○ 近年、青少年を取り巻く環境が複雑化しており、多様化する課題に対応する青少年育成関係団体の組織の在り方や活動内容について精査し、新たな体制の構築を検討していく必要がある。 ○ 巡回活動は地域住民と連携し充実しているが、更なる担い手の確保が求められる。 ○ 時代背景の変化を踏まえ、相談活動の周知方法や相談体制の見直しを検討していく必要がある。

11 地域連携による教育活動の推進

取組の概要（目的）	「地域の子どもは地域で守り育てる」をスローガンに、白老町青少年育成町民の会が核となって、地域の連携を基盤とした教育活動を推進する。	
主な施策と取組内容	成果	
(1) 地域連携による安全・安心な環境づくりの推進 ○地域の教育力を高める学習機会の設定 ①白老町青少年育成町民の会への支援、連携 ○「あいさつ・一礼運動」の実施 ②あいさつ・一礼運動 ○町民の会「ひなんの家」の旗の設置、維持管理 ③町民の会「ひなんの家」の旗配布	①会員の高齢化や活動の停滞が指摘される中で、活動の在り方について、会員が自由に協議できる「話さる会」を2回開催し、課題と方向性の共有を進めることができた。 ②コロナ禍ではあったものの、関係団体等からの協力を得て2回実施することができた。そのことにより、地域との連携や地域住民と子供たちとの交流を図ることができた。 ③青少年センターの支援を受けて、町民の会が主体となって旗の交換を行うことで、一定の犯罪抑止力となっている。また、町民の会の活動をPRする効果も有している。	
(2) 地域との交流活動の支援 ○子供たちが地域住民と交流するイベントの支援、子ども会活動の支援 ①通学合宿事業、子ども会活動への支援	①竹浦地区で行われた地域交流会では、地域住民と子供たちが集い、地域の歴史を学ぶ素晴らしい取組であった。	
(3) しらおい子ども憲章～ウレシパ～の具現化 ○憲章を具現化するための各小中学校における特色ある取組への支援 ①子ども夢・予算づくり事業 ○憲章の趣旨を地域住民や保護者などに理解・浸透を図る取組の充実 ②しらおい子ども憲章実践発表会 ○中学生の夢や希望を育むプロフェッショナル講演会の開催 ③プロフェッショナル講演会	①しらおい子ども憲章の具現化に向けて各学校の推進委員が中心となり、児童生徒が予算を活用した取組を主体的に推進することができた。 ②新型コロナの影響により事業中止。 ③国内外で活躍される音楽家の講演や演奏を聞き、トップアーティストの積み重ねてきた努力や、夢を実現するための思いに触れることができた（講演や演奏はDVDに事前収録）。	

課題と今後の方向性

- 少子高齢化に加え、新型コロナウイルスの影響により、子供たちの成長を促す地域行事が減少している。
- しらおい子ども憲章は、児童生徒の取組に加えて、保護者や地域住民への周知を強化し、憲章の大人が担う役割の理解促進を一層進める必要がある。

令和3年度 第3次白老町社会教育中期計画実施状況結果

評価指標		説明
a	順調	順調に進んでいる。十分な効果が見られる。
b	概ね順調	概ね順調に進んでいる。成果が見られる。
c	やや遅れている	やや遅れている。一部、課題がある。
d	遅れている	遅れている。見直しなどの対策が必要
-	未着手または評価不可	

推進施策1 青少年教育の推進	施策	自己評価
1 しらおいの魅力に気付き、ふるさとへの誇りや愛着を育むふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然や歴史など地域資源を活かした体験イベントの実施 	a
2 子供たちの主体性や協調性を育む交流機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や文化に親しむ交流機会の充実 ・国際感覚を養う交流機会の充実 	-
3 地域活動やまちづくりの担い手となる人材の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人を含む地域の青年の主体的な参画による成人式の開催 ・北海道教育委員会と連携したリーダー養成研修への派遣 ・地域の青年団体等の活動への支援 	b

推進施策2 成人教育の推進	施策	自己評価
1 町民ニーズを捉えた多様な「公民館講座」の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館等の社会教育施設において、地域人材や関係団体など、多様な主体と連携した講座の開催 ・ICTを活用した取組の推進 	a
2 地域課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組む意識を醸成するための学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育関係団体や町内会組織等と連携した講座の実施 	a
3 女性が社会で活躍するための人材養成及び支援	<ul style="list-style-type: none"> ・国内女性リーダー養成研修等への派遣 ・地域で活躍する女性に学ぶ女性向け講座の開催 	a

推進施策3 高齢者教育の推進	施策	自己評価
1 高齢者の知識を活かした事業、世代間交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流の推進 ・人材の発掘と活動機会の創出、支援 	b
2 高齢者による主体的な学習、健康増進を支える環境づくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者関連事業の開催、支援 ・健康づくりに資する機会の創出、支援 	b
3 高齢者大学の主体的な運営の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者大学の活動内容の充実、積極的な周知活動による参加奨励 	a
4 高齢者の意識や認識の転換に向けた取組の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの高齢者モデルの設定と発信、高齢者に関する実態把握と分析 	b

推進施策 4 社会教育施設・スポーツ施設の整備・活用	施策	自己評価
1 計画的な修繕や設備の充実による利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設やスポーツ施設の現状の把握と施設毎の分析 修繕改修計画の策定と適正な維持・管理 耐震化や長寿命化の検証 	c
2 施設の有効活用と検討、機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者との連携による施設の有効活用 スポーツ施設の適正な管理と既存施設及び機器を活用した事業提案に対する支援 	b
3 利用者満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> 親切丁寧な対応で親しまれる施設づくりの推進(利用者目線にそった備品等の更新、充実) 	a

推進施策 5 社会教育活動の推進	施策	自己評価
1 社会教育関係団体等の活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な団体活動のための相談、支援 	b
2 地域の多様な団体の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> 町民の意見をもとにした社会教育活動の推進 団体活動のネットワーク化、リーダーやコーディネーターの発掘と養成 	b
3 活力あるまちづくりを進めるための社会教育活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> 国や道などの補助事業による財源確保 みんなの基金事業等、各種補助金を活用した活動の支援 町民の文化活動及びスポーツ活動への支援・表彰 	a
4 学習を支える情報収集と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 町の公式 facebook を活用した社会教育事業等の情報発信 	b

推進施策 6 芸術文化活動の推進	施策	自己評価
1 豊かな心を育む芸術鑑賞事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 芸術鑑賞事業等の開催 	a
2 町民がまちの魅力や良さに気付く学習機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> 地域について学ぶ講座の開催 地域への学びを深める学習教材の作成 	b
3 文化団体連絡協議会を中心とした特色ある地域文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> 各地区における文化祭の開催 各団体の発表機会の提供・支援 町内で活動する文化団体への活動支援 	b

推進施策 7 文化財の保存・活用	施策	自己評価
1 陣屋跡の環境整備及び多角的な活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 史跡白老仙台藩陣屋跡保存活用計画の進行管理 町民との協働による史跡の管理と活用 	a
2 町民に親しまれる博物館活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 文化財を活用した特別展やイベントの開催 質の高いガイド人材の養成、資質向上 情報誌やインターネットを活用した発信の強化 展示の充実 	a
3 国立アイヌ民族博物館との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究体制の整備、充実、歴史的遺産の相互活用 	b
4 資料館見学や地域学講座など学校教育への積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> 資料館を訪問する児童・生徒の受け入れ、町内の高等学校が行う地域学講座への協力 	a

5 伝統文化継承者の活動促進	<ul style="list-style-type: none"> ・本町独自のアイヌ文化や各地域における伝統技能等を有する人材の発掘、活用、発信 ・後世へ伝統文化を伝える後継者の育成 	b
----------------	---	---

推進施策 8 読書活動の推進	施策	自己評価
1 親しまれる図書館を目指した施設と蔵書の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を推進する蔵書選定、適切な蔵書管理 ・広く本に親しみ、読書機会をつくる事業の充実 ・アイヌ関係資料を含む郷土資料の収集及び活用 ・時節に応じた資料展示の充実 	b
2 利用しやすい環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・移動図書館車、本の宅配サービス等の活用促進 ・ICTを活用した環境整備の推進 	b
3 家庭・地域・学校等と連携した子供の読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・第四次白老町子供の読書活動推進計画の推進 ・学校司書との連携による調べ学習や読書活動の支援、充実 ・保護者を対象にした読書の普及啓発活動の推進 ・読書活動団体等への支援・協力 	a

推進施策 9 スポーツ・健康増進活動の推進	施策	自己評価
1 スポーツ推進委員等と連携した、健康増進・レクリエーション機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・軽スポーツ等の普及、促進（スポーツ推進委員による学校教育への支援） ・しらおい元気まち体操の普及 	b
2 ライフステージに応じた地域スポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者のノウハウやネットワークを活用した魅力的なスポーツイベントや講座の開催 ・スポーツ大会やイベント開催による地域活性化 ・学校開放事業の適切な運営 	b
3 スポーツ団体等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ団体の活動の積極的な周知 ・指導者の育成による競技力の向上 ・総合型地域スポーツクラブとの情報共有 	c
4 計画性のあるスポーツ行政の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・現状把握と方向性の検討 	c


推進施策 10 青少年の健全育成	施策	自己評価
1 地域住民と連携した巡回活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・青色回転灯車による下校時の定期的な巡回活動 ・祭典実施時の巡回活動 ・近隣市町と連携した通学列車添乗指導 	b
2 青少年を健全に育成する環境浄化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「白老町アウトメディア123」の推進 ・社会を明るくする運動への協力 ・マチコミメールによる情報発信 	b
3 悩みや不安を抱える青少年や保護者に対する相談活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・相談電話による個別相談、相談ポストの設置 	c
4 健全育成活動に地域住民が積極的な参画を促す啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・「青少年センターだより」による情報提供 ・『広報げんき』による情報提供 	b
5 関係機関及び団体の連絡調整、ネットワーク化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・白老町青少年問題協議会の開催 ・関係機関や学校等との緊密な情報交流、連携強化 	b


推進施策 1 1 地域連携による教育活動の推進	施策	自己評価
1 地域連携による安全・安心な環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を高める学習機会の設定 ・「あいさつ・一礼運動」の実施 ・町民の会「ひなんの家」の旗の設置、維持管理 	a
2 地域との交流活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが地域住民と交流するイベントの支援、子ども会活動の支援 	b
3 しらおい子ども憲章～ウレシパ～の具現化	<ul style="list-style-type: none"> ・憲章を具現化するための各小中学校における特色ある取組への支援 ・憲章の趣旨を地域住民や保護者などに理解・浸透を図る取組の充実 ・中学生の夢や希望を育むプロフェッショナル講演会の開催 	a

5 外部評価

令和4年度（令和3年度対象）教育委員会事務の管理及び執行状況についての点検及び評価にあたって、客観性を確保するため、点検評価の方法や結果などについて学識経験を有する者の意見を聴きました。

(1) 学識経験者

氏名 武田 信 昭 
 所属等 退職学校長

氏名 正 本 稔 恵 
 所属等 退職学校長

(2) 意見聴取日等

令和4年8月26日（金） 場所：白老町教育委員会会議室

(3) 主な意見

①教育委員会の活動状況

収束することが見えない新型コロナウイルス感染症による影響は、様々なところへ波及する中であっても、社会情勢の変化や教育行政への課題について協議・検討を行い取組が進められています。教育行政も大きな変化が求められ、地域の実態や要望を適切に把握し適切に施策を推進することが必要です。今後も適時適確な意見や指導・助言を行い、よりよい教育行政の推進に努めてください。

②教育委員会の施策成果について

《学校教育課》

新しい時代に生きる子供たちの豊かな成長を支え育むとして、タブレット端末の活用は、今後の教育活動に影響があるものと推測されますが、これまで進めてきた白老町スタンダードの

取組みや各種検定、白老寺子屋などの実施により、予測困難な社会を生きる子供たち一人ひとりの未来を拓く生きる力を育成してください。

また、コロナ禍で活動の延期や中止、縮小される状況がある中でも体験活動や読書環境の充実、ふるさと給食、リクエスト給食の提供など子供たちを守り育成する取組も重要と考えますので、引き続き取組みを進めてください。

地域に信頼され、地域とともにある学校づくりとして、地域の自然や文化・歴史を大切にしながらふるさとへの愛着を持ち、夢の実現に向かって努力できる子供の育成を目指した「白老未来学」のカリキュラム策定の準備が始まっていますが、今後の教育活動でどのように実現されるのかとても楽しみであり期待しています。

また、教育の場は家庭、地域にもあり学校運営協議会の活動や白老町版スタートカリキュラムの作成などさらに地域一体となり子供たちを育成する取組が進んだものと捉えますが、今後子供たちが未来に希望を持ち夢に向かって頑張ることができるような取組を進めてください。

多様化するニーズに対応した教育環境整備の推進として、コロナ禍の影響は、子供たちだけではなく教職員へも大きな負担があるものと推察されますが、より子供たちと向き合う時間を守るため働き方改革を推進してください。特に学習活動でのタブレットの活用は、より効果的な取組となるよう検討し、授業改善につながるようお願いいたします。

また、教育施設の整備についても適切に教育活動の変化に対応した学習環境を確保し、子供たちの学びを保障してください。

《生涯学習課》

成人教育の推進として、町民ニーズや地域課題解決をテーマとする公民館講座事業を多数開催されたことは、地域の活性化に寄与する人材の育成に繋がる取り組みであります。

特に、若者が地域活動に積極的に参画することの意義や苦勞、参画を促す支援のあり方について理解を深めることを目的に開催された「地域課題セミナー」において、白老東高等学校の生徒や地域活動に取り組む白老青年会議所などの若者を中心とした車座集會が行われたことは、対話を通じて若者の思いを理解する大変良い機会であったと思います。

今後も、幅広い世代間の意見交換の場を設けるなど、地域の課題解決を担う人材育成に繋がる取り組みを推進してください。

文化財の保存・活用として、「史跡白老仙台藩陣屋跡保存活用計画」に基づき、令和4年度から予定される整備基本計画の策定に向け、保存・活用整備に関する課題の抽出及び方向性についての検討が行われましたが、史跡の本質的価値を確実に次世代へ継承するとともに、多様な来訪者にわかりやすく伝えることができることを念頭に、民族共生象徴空間ウポポイの関連区域としての機能や、白老町の歴史文化を学び、交流を促す拠点としての機能を十分果たすべく、史跡整備が計画的に推進されることを期待します。

文化及びスポーツ活動の推進と環境づくりとして、長引くコロナ禍において文化・スポーツ団体の多くは活動自粛を余儀なくされ、新しい生活様式を取り入れた行動変容が求められる中、特に高齢化が進む活動団体の組織力低下が懸念されます。

そのような中、行動制限の緩和と社会経済活動の維持に伴い、町文化祭や黒獅子旗獲得記念北海道中学校軟式野球大会などのイベントをはじめ、公民館や体育施設を利用した各種活動が再開されたことは喜ばしいことであり、対面によるコミュニティ維持の更なる工夫と活動の活性化に向けて、所管課として文化・スポーツ団体の育成に努めてください。

併せて、文化施設及び体育施設は総じて老朽化が顕著でありますので、将来を見据えた適切な維持補修と利用環境の向上が図られることを望みます。

《教育施策全般》

白老町教育振興基本計画及び令和3年度教育行政執行方針に基づき、様々な事業を工夫しながら取り組まれていることを確認することができました。白老町教育大綱の理念である「ともに学びあい ころころひびかせ 笑顔かがやく 教育の町 しらおい」の実現を目指し、子供たちが新たな社会を自立して生きる力や生涯を通じて、ライフステージに応じた社会教育の提供、家庭や地域社会が身近な「学びの場」となるよう家庭・地域との連携・協働の推進が欠かせません。

引き続き学校・家庭・地域・行政が一体となるよう取組を進め、子供も大人も夢や希望、生きがいを持つことができる教育施策を実践していただけることを期待しています。